

資料4別紙2

介護保険等運営協議会
令和5年8月4日開催

在宅生活改善調査について

1 調査概要

現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっている利用者の実態を把握し、地域に不足する介護サービスを検討する。

2 調査期間

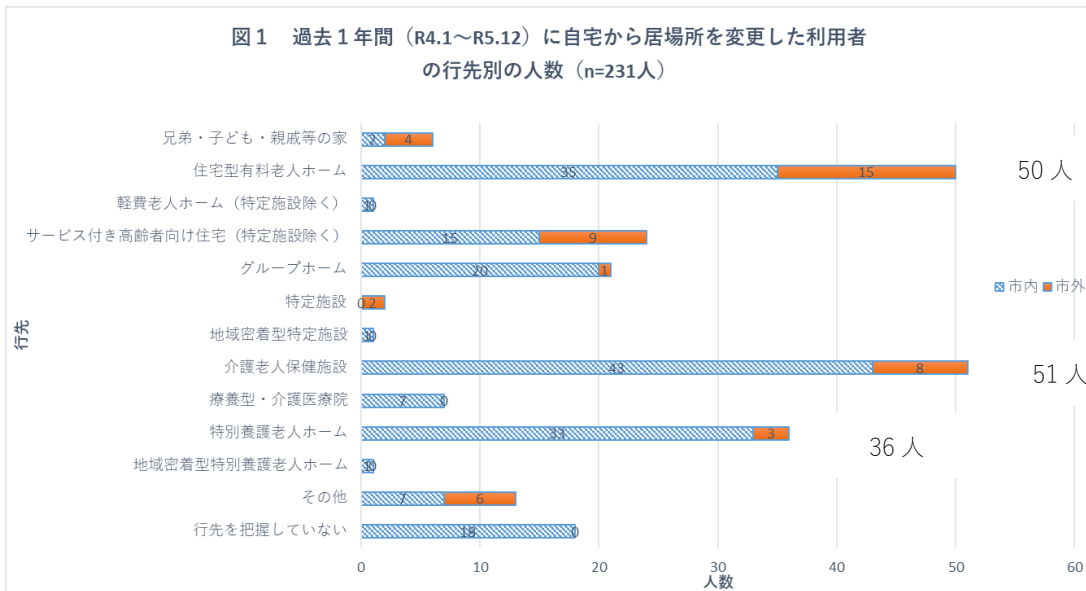
令和5年1月6日～2月28日

3 集計結果

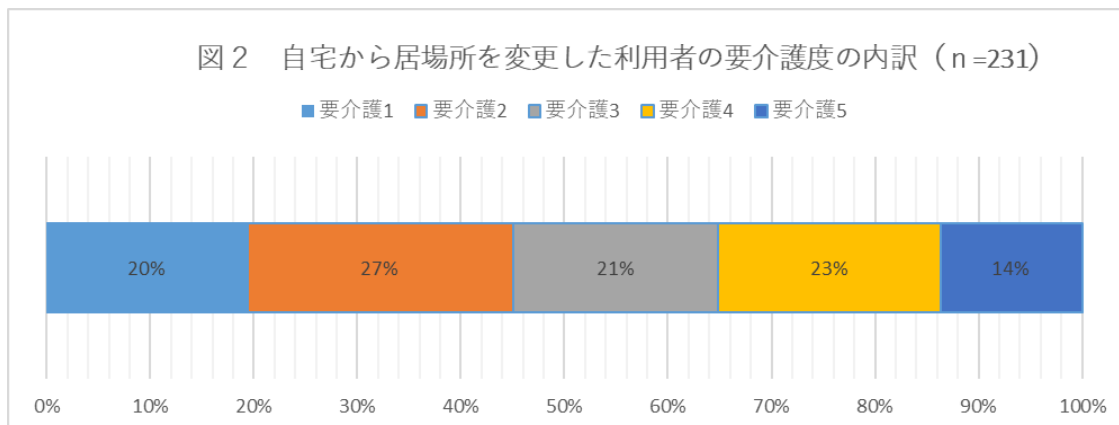
- (1) 対象数 41事業所（介護支援専門員数85人）（居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護）
- (2) 回答数 27事業者（回収率 66%）
※担当する利用者に対して、介護支援専門員としての判断に基づき、回答いただいたものです。

4 調査結果

- (1) 過去1年間に自宅から居場所を変更した利用者の行き先別の人数（図1）



(2) 自宅から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳人数 (図2)



(3) 現在のサービス利用※では在宅生活の維持が難しくなっている利用者 (表3、図3)

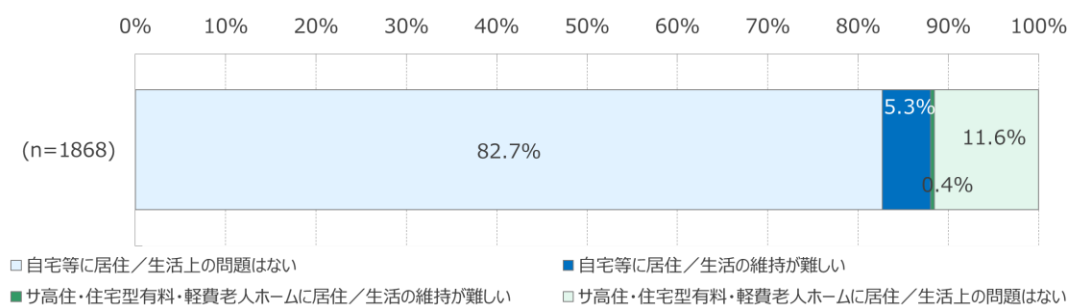
※例1 「頻回な身体介護が必要となったため、現在の訪問介護の利用では対応が困難であり、定期巡回サービスの利用がより適切と思う利用者」

※例2 「認知症に伴う周辺症状の悪化により、介護者の負担が重くなったため、グループホームへの入居がより適切と思う方」など

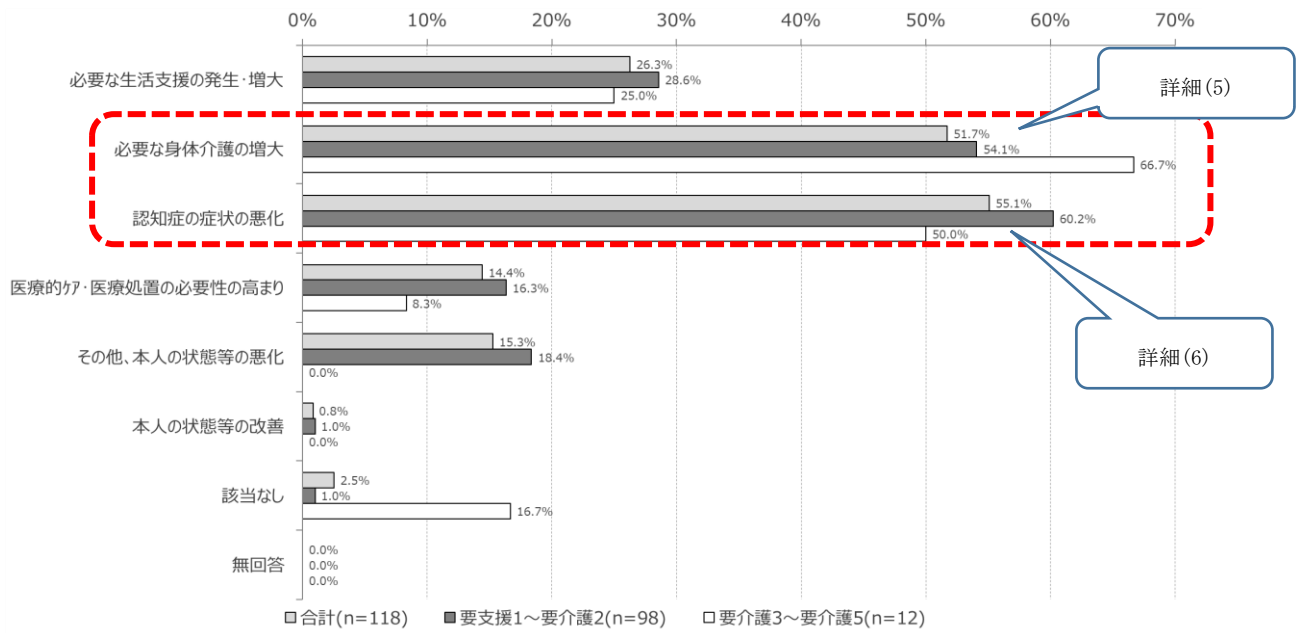
表3

	自宅等に居住 ／生活上の問題はない	自宅等に居住 ／生活の維持が難しい	サ高住・住宅型 有料・軽費老人 ホームに居住 ／生活の維持が難しい	サ高住・住宅型 有料・軽費老人 ホームに居住 ／生活上の問題はない	合計	生活の維持が 難しくなっている割合	粗推計
(n=1868)	82.7%	5.3%	0.4%	11.6%	100.0%	5.7%	162人

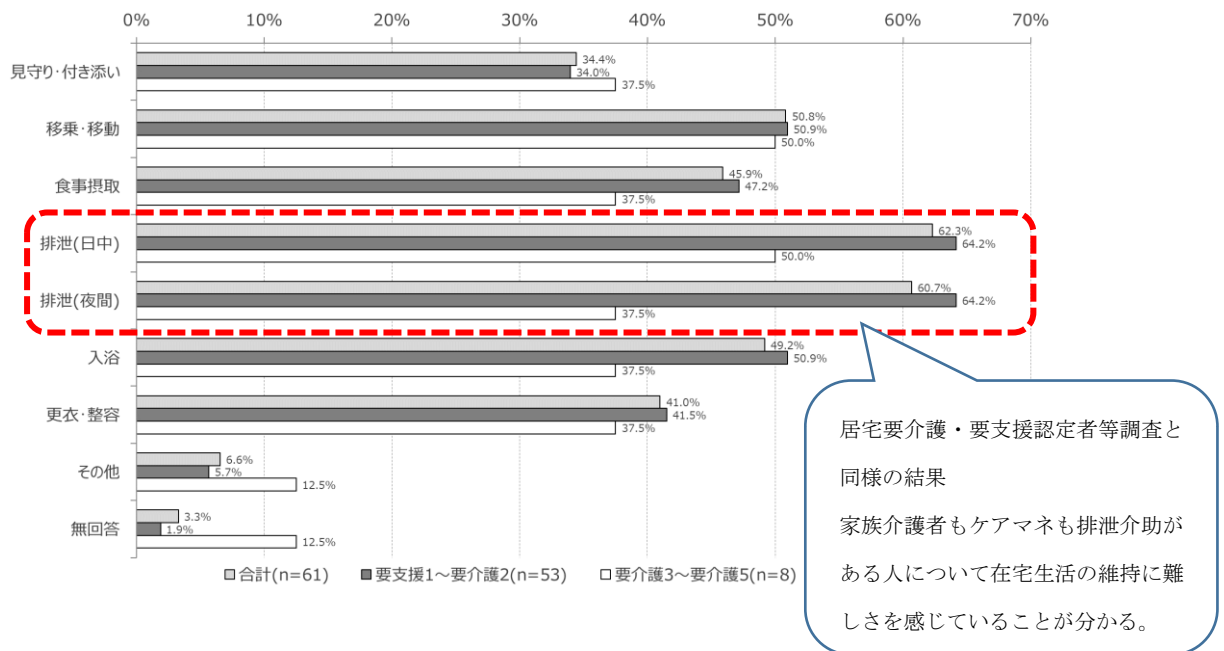
図3



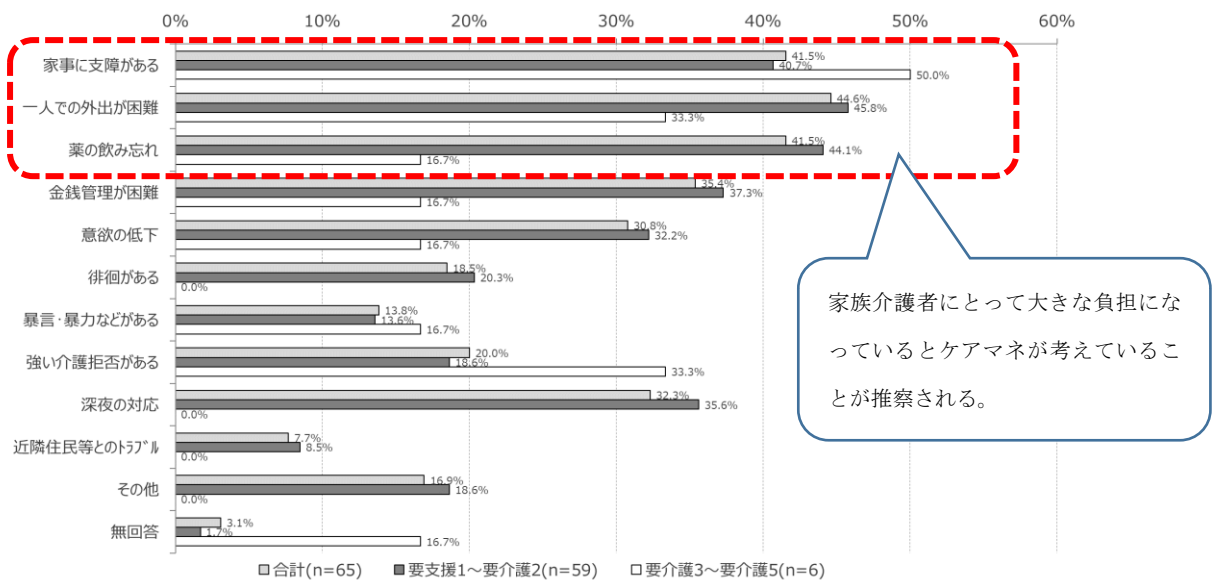
(4) 生活の維持が難しくなっている理由（本人の状態に属する理由、複数回答）（図4）



(5) 「必要な身体介護の増大」が理由の人の具体的な内容（複数回答）（図5）

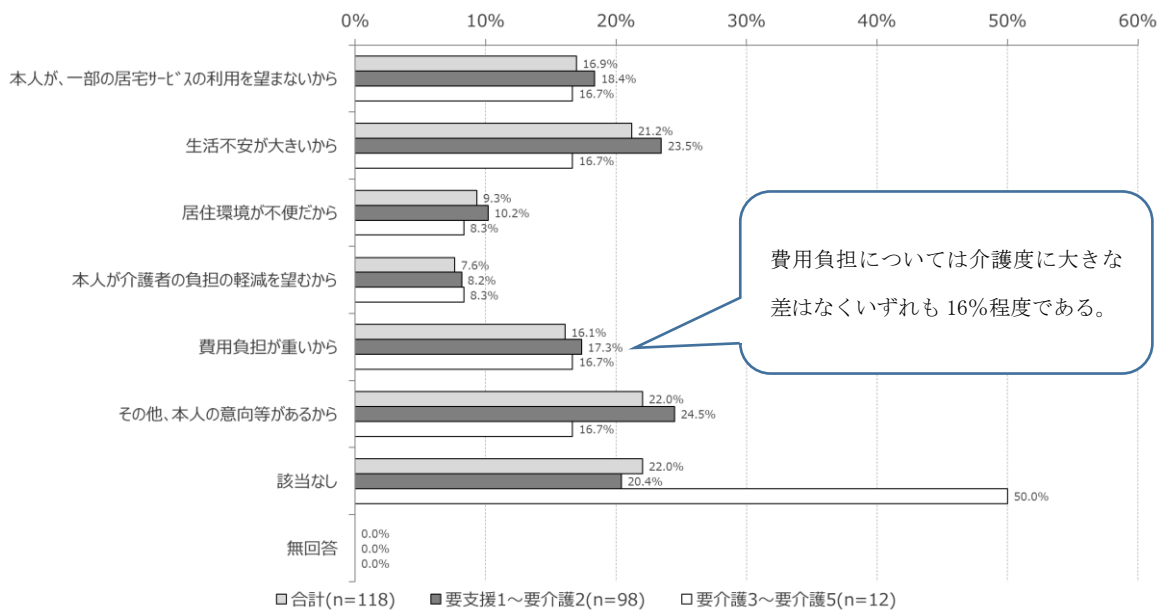


(6) 「認知症の症状の悪化」が理由の人の具体的な内容（複数回答）（図6）



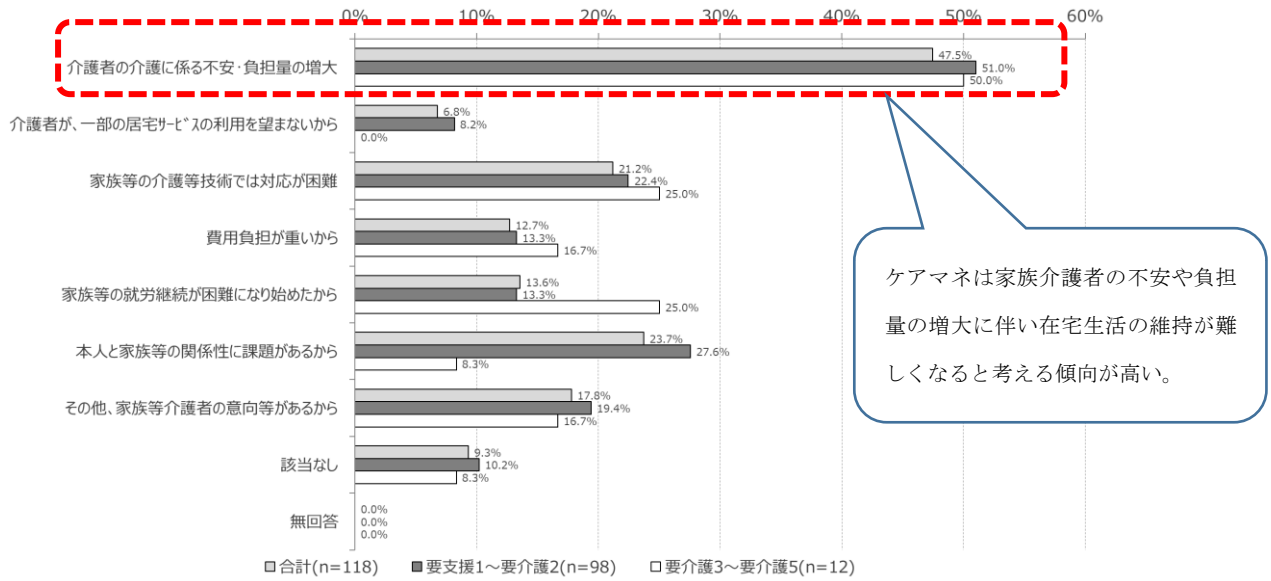
家族介護者にとって大きな負担になっているとケアマネが考えていることが推察される。

(7) 生活の維持が難しくなっている理由（本人の意向に属する理由、複数回答）（図7）



費用負担については介護度に大きな差はなくいずれも16%程度である。

(8) 生活の維持が難しくなっている理由（家族等介護者の意向・負担等に属する理由、複数回答）（図8）



(9) 在宅で生活の維持が難しくなっている人より適切と思われるサービス（複数回答）（図9）

